



## 発刊あいさつ

長崎県水産部長 徳島 惇

長崎県は、九州の北西に位置し、九州本土に匹敵する広大な海で様々な漁業が営まれています。特に壱岐、対馬、五島をはじめとする島々では、漁業は地域の基幹産業として重要な位置を占めています。

しかしながら、近年、水産資源の減少や魚価の低迷、担い手の減少や高齢化等の問題を抱え、漁業は厳しい状況に直面しています。このため、長崎県では新世紀にふさわしい本県水産業のあり方や施策の展開方向を示すべく、平成13年3月に「長崎県水産業振興基本計画」を策定し、「本県の美しい海を守り、水産資源の適切な管理と利用による持続可能な新世紀の水産業をめざす」こととしております。

このような時期に、本県沿岸漁業の「発達の歴史」「各種漁業の沿革や現況」及び「近年使用されている漁具や漁法」について記録した「長崎県の漁具・漁法」が発刊されることは、漁業の維持・発展のために漁業者自らが行う漁具漁法の工夫や改良並びに新たな漁法への取り組みの参考になると思います。また、これから新たに漁業に取り組む方々には教科書的な資料としてお使いいただきたいと考えております。

従来から、漁具や漁法は各地の漁業者がそれぞれの漁場に適したものを考案し、伝統的に受け継がれる中で、その時代にあった資材や機器を導入して工夫・改良を加えられてきており、常に改良と発展を繰り返すものです。近年の漁業は、有限の資源を効率的に利用しつつ資源を保護管理するという資源管理型の視点からの取り組みが必要です。また、漁業者レベルでの情報交換も活発に行われるようになり、先進地の漁具・漁法の導入も行われるようになっていきます。本書がそれぞれの地域の実態や漁場に適合するための漁具・漁法の改良や導入に有意義に活用され、漁業者の経営安定と共に本県沿岸漁業の振興に役立つことを希望します。

平成14年3月